

里山と田んぼと水鳥



分科会内容の紹介

- ・日時: 2010年4月24日
- ・場所: 千葉県神崎町及び周辺
- ・参加者数: 15名
- ・内容: 午前 冬期湛水不耕起栽培圃場見学
午後 公民館で、講演と意見交換

本分科会のまとめ



千葉県成田市の隣町、神崎町の藤崎農園で冬期湛水不耕起栽培の現場に行きました。2009-2010年度にコハクチョウが32羽渡来して定着しました

前年秋に収穫したあとのコシヒカリの稲株の根っこがまだ元気に生きている。これから、菌によって溶かされ肥料に

無肥料無農薬でお米づくり。稲わらの分解とイトミミズの働きその技術が確立した。収穫量が変わらず、お米の高額販売可能に。田んぼの基礎構造がかわる。

市民等に対する提言・提案

里山に再生には市民農園方式で、手間はかかっても市民が関わって、里山の再生に関わることが肝心に

里山に再生には水田の再生のために、里山の役割の見直しをする。堆肥を作る。水源確保。野生動物との緩衝地帯。

何よりの里山の手入れにより、里山からの恵みを得る。日々の売り上げを得て、若者の自立と参加を促し成功させること

